



広島城北高等学校サッカー部OB会
広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015
電話 082-229-0111 FAX 082-220-2366

僕、城北サッカー部、考える力

35回生 井川 勇

はじめまして、35回生の井川 勇です。
ちなみに締め切り遅れてすみません。
でも、OB日記の依頼を戴いて、非常にうれしく思っています。

僕は現在、某広告代理店の新人として、日々めまぐるしく変化する社会トレンドを勉強
かたやお得意先との接待等々・・・社会人として採まれ始めている次第です。

ざっくり言うと、誰もが目にするテレビのCMや雑誌の広告を作る仕事です。大学・大学院では建築デザインの勉強、就職ではちょっと脱線(?)した形ですが・・・

さて、このOB日記を今までは拝見させていただく立場でしたが、打って変わってまさか自分が書く立場になるとは思っていませんでしたので、何を書いていいものか・・・悩む次第です。

私事をつらつら述べるのも何なので、高校サッカー部で学んだこと、それが今の自分をどう支えてくれているのかを書きたいと思えます。

さて、振り返って考えてみると、僕にとつて城北サッカー部でサッカーをするということとは、ただ単に「文武両道を成す」ということだけではありませんでした。

確かに、学校の勉強を頑張ることと放課後にサッカーを頑張ること、この両立は僕だけでなく今までのOBの方々もきつかったと思います。あの時以上に頑張った時期は未だ無く、頑張ったこと自体が今の糧になっているかもしれません。また、その生活を3年間続けることが出来たのは、同じ目標に向かう同志の存在や、宮本監督、岩井コーチ、黒瀬部長の人柄のおかげでした。

これは広島城北サッカー部OBなら、誰もが得ることの出来る貴重な資産です。ただ、僕はもう一つ、大事なことを得たように思っています。

それは「自分自身で考える力」です。

宮本監督はよく、ミーティングで自身のサッカーに対する想いを語ってくれていました。「サッカーはボールさえあれば何をしてもいいスポーツだ。ルールは無い。その自由こそがサッカーの本質であって、だからこそサッ

カーが一番楽しいスポーツなんだ」「決まりきったことをこなすんじゃないやなくて、考える自由がサッカーにはある」練習中にも、「ボールを持った瞬間、次のプレーを考えろ!」「相手の動きを見て、自分のプレーを考えろ!」「試合の流れを感じて、今すべきことを考えろ!」と激を飛ばしていました。

こういった「自分で考える」環境でサッカーが出来たことは、今の僕にとつての貴重な財産となっています。
プレー中に考える、ということはもちろんですが、サッカー部の後輩・先輩関係や、レギュラー・サブの関係においても、「今自分はこうすべきか、どう動くべきか」を考えるようになりました。僕自身、選手兼マネージャーという位置づけであり、なかなかAチームでプレーする機会も少なかった分、どうしたらチームの勝利に貢献できるか、どうしたらチームの雰囲気良く出来るのかを考えるようになりました。

自分の頭で考えること。これは城北サッカー部だからこそ触れることが出来た付加価値のようなものです。

高校で勉強を頑張れたこと、大学でも建築という分野で評価されたこと、大学院で自分ひとりの力で論文をまとめ上げることが出来たこと、そして就職活動でも自分が何をやりたいのかを考え続けたこと。これらは誰の意見にも惑わされず、周りに流されず、自分自身で考えることが出来たからだと思えます。

今の仕事も、常に新しい広告を考え、どうやったらお茶の間の皆さんが「オモロイ!」と思ってくれるのかを考えています。

僕が思うに、おそらく高校生が自分自身で考える機会、そしてそれを行動に移す機会はそのうち無いものです。ましてや「サッカー」という、自分の考えたプレーを実際に表現することなど無いと思えます。

ちよつと余談ですが、子供は8〜10歳に一番感性が豊かになり、16〜18歳で一番その人の能力が伸びる時期らしいです。そんな時期に、城北サッカー部で、サッカーだけではなく、いろいろなことを経験し、勉強させてもらい、その中でも「自分自身で考える力」は、今の僕を支えるものとなりました。

・・・と、めちゃめちゃ独断と偏見で文章を書きました。「おまえそんな言って、正月に部活サボって大内と西△内とカラオケ行つたじゃろーが!」と言われてしまうかも知れません。が、なんかかんやと考える3年間であつたことは間違いありません。あと、単純に楽しかったです、城北サッカー部。

現役の皆さんには「誰じゃ、おまえ!?!」という声が聞こえてきそうで怖いですが・・・この日記は、ちよつと上の代の、ちよつとイジラれキャラの井川勇からの、ちよつとしたエールだと思ってください。

自分の考えたことがプレーとして表現できる幸せ、最上段でかみ締めてください!
それが大会で、結果として残ることを信じています。

では、現役の皆さん、直近の大会での活躍を期待しております。

カ一部長年の目標であつた県大会出場を果たしてくれましたが、1つ上の春間主将世代、そして我ら海野主将世代共に、県大会出場に手が届く本当にあと一歩のところまで、悔しい思いをしてきました。PK合戦までもつれ、1巡してやつと決着のついた祇園北戦、選手権での松永戦、新人大会での海田戦、美鈴が丘戦、引退試合となつた広島工大戦など、今でもふと当時の試合場面が頭に浮かんでくる程、悔しさと共に、強く印象に残っています。

サッカ-を通じて・・・
広島城北高校サッカー部36回生、シロこと白木博隆です。先日宮本先生からお電話を頂き、OB会報誌への寄稿を頼まれ、引き受けさせてもらいました。大変読みにくい文章ではありますが、最後までお付き合いください。
現役時代、私は1年生の頃から試合に出させてもらい、紅白戦でもプレーを一時中断し、ヘディング練習に費やしてもらうなど、宮本先生をはじめとするスタッフの方々に期待されてきた(?) 選手の1人でしたが、最後までその期待に応えることができなかった選手でもあったと思えます。城北サッカー部の聖地でもある最上段グラウンドに「シロー!!!」という宮本先生、岩井コーチの声が響かない日はなく、不甲斐ないプレーや気力のないプレーをすれば「お前のプレーは淡白だ。」と言われ続けてきました。暑い日も寒い日も、苦しいときも楽しいときも最上段で過ごしてきましたが、愉快で楽しいチームメイトに囲まれ、サッカーを存分に楽しむことが出来ました。1つ下の高山芳主将世代で城北高校サッ



サッカ-を通じて・・・

36回生 白木博隆

私は、大学進学、就職と人よりも周りの人に心配をかけてきた人間ですが、人生のターニングポイントには必ずといっていい程、城北高校サッカー部が深く関係していたと思えます。大学、就職共に、がけつぷちに立たされたギリギリの所でなんとか決めてきたという感じがしますが、そんな私を気にかけて、電話や最上段で、皮肉たつぷりの言葉ながら、的確なアドバイスや励ましを送って頂いた宮本先生をはじめとするスタッフの方々、時には私の愚痴に付き合ってくれ、苦業を共にした先輩や同期の仲間など、サッカーを通じて築きあげてきた人とのつながり、支えがあるおかげで今の自分があるのだと思えます。
最後になりましたが、広島城北中学・高校サッカー部のさらなる飛躍を願っています。サッカーを楽しみ、最後まであきらめないという伝統はそのままに、強い城北サッカー部がピッチで躍動する。広島島の中学・高校サッカーの頂点に立つ日を夢見て、広島広域公園でお会いしましょう!!!

カ一部長年の目標であつた県大会出場を果たしてくれましたが、1つ上の春間主将世代、そして我ら海野主将世代共に、県大会出場に手が届く本当にあと一歩のところまで、悔しい思いをしてきました。PK合戦までもつれ、1巡してやつと決着のついた祇園北戦、選手権での松永戦、新人大会での海田戦、美鈴が丘戦、引退試合となつた広島工大戦など、今でもふと当時の試合場面が頭に浮かんでくる程、悔しさと共に、強く印象に残っています。
サッカーと共に過ごした城北高校卒業後、1年間の浪人生活、4年間の京都での大学生活を終え、今春より広島で新しい生活が始まりました。大学では体育を専攻し、教員免許も取得することができました。現在では、Jリーグサンフレッチェ広島島のホームグラウンドでもあり、広島県の高松サッカーとも縁の深い、広島広域公園陸上競技場(広島ビッグアイチ)でスポーツ指導・施設管理・運営の仕事をしてながら、宮本先生と同じ体育の教員を目指し、教員採用試験の勉強に励んでいます。
同期の仲間のほとんどが大学を卒業し、社会人となりましたが、頑張っているとの知らせを受けるたび、自分も頑張らなければと良い刺激を受けています。自身も、社会人1年生ということもあり、慣れない事に遭遇することが多く、忙しい毎日を送っていますが、充実した日々を過ごしています。
私は、大学進学、就職と人よりも周りの人に心配をかけてきた人間ですが、人生のターニングポイントには必ずといっていい程、城北高校サッカー部が深く関係していたと思えます。大学、就職共に、がけつぷちに立たされたギリギリの所でなんとか決めてきたという感じがしますが、そんな私を気にかけて、電話や最上段で、皮肉たつぷりの言葉ながら、的確なアドバイスや励ましを送って頂いた宮本先生をはじめとするスタッフの方々、時には私の愚痴に付き合ってくれ、苦業を共にした先輩や同期の仲間など、サッカーを通じて築きあげてきた人とのつながり、支えがあるおかげで今の自分があるのだと思えます。
最後になりましたが、広島城北中学・高校サッカー部のさらなる飛躍を願っています。サッカーを楽しみ、最後まであきらめないという伝統はそのままに、強い城北サッカー部がピッチで躍動する。広島島の中学・高校サッカーの頂点に立つ日を夢見て、広島広域公園でお会いしましょう!!!

アンテナを張る

41回生 佐古 祥太郎

初めまして。41回生の佐古祥太郎です。宮本先生にサッカー部だった時のことについて何か書いて欲しいと言われたので現役時代を振り返り、僕なりに今感じた事を書こうと思います。

マネージャーをしている時、僕の中では「アンテナを張る」ということを意識して仕事をしていました。

アンテナを張ることで、いろいろな情報が入ってきます。そして、ただ情報を入れるだけでなく、それに合った答えが必要です。

簡単に例えると雑用の場合、水がないので水を入れよう。とか、次はミニゲームをするからピブスを準備しよう。等という事です。

その事は部活上だけでなく、大学へ入って、そして社会人となってからも大切な事だと思います。実際、大学へ入ってからアンテナを張ることが多くなりました。高校のときまでは、ほ

ワールドカップ

OB会長 吉川 英司

中田英寿の長いようで短い「旅」が終わり、我々サッカーファンの期待に胸を膨らませた2006年度「ワールドカップ」も「イタリア」の優勝とともに幕を閉じた。

このワールドカップに対する思いは、OBの皆様の間でも様々な……？？？

多分、一番の物議をかもしと思われる事件は「決勝戦」のフランス・ジダンの退場では無いかと思います。(少なくとも私自身は生中継を見ていて本当にびっくりしました。)世界一のトッププレイヤーの引退の花道が「シュート(足技)」ではなく「頭突きとは……」

先日、我が社の得意先を集めた表彰式に元ラグビー全日本監督である、平尾誠二氏を呼び約1.5時間ばかり講演をしてもらいました。その講演の中での話です。氏が全日本監督時代に元読売クラブの加藤久氏に「昔と最近の日本代表のサッカーの違いは？」と聞いたそうです。返事は、「パスのスピードが増した!」との事です。この「の心は、早いスピードのパスをとめる事のできる「トラップ技術の進歩」だそうです。

最初に書いた、中田が全日本に加入してきて来、彼のパスは取りやすい「易しいパス」ではなく、常に早い足元へのパスを意識し(世界へ

とんど先生などが情報をくんだり、受身な状態ばかりでいたけれど、大学などでは自ら行動を起こさないと何も情報は入ってきません。

大学生の中にはアンテナを張っていない人もたくさんいます。そういう人は、アンテナを張れてる人に比べて作業が遅かったり、話を聴いていない人が多いと思います。

僕はみんなにアンテナを張るということ意識してサッカーなり、学校生活を送ってほしいとおもいます。そうすれば、部活も生活もよくなっていくと思います。

マネージャーという仕事はそのことを多くするポジションだったと思います。その仕事の経験が今とても役に立っています。そして、その他城北サッカー部でいろいろ経験できたことも役立つと思います。城北サッカー部としての活動は人生の中で特別なものだと思ひ、誇りに思っています。

では、試合でいい結果が出るのを楽しみにしています。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

通用する為に)続けたそうです。

ここで賢かったのが、当時の全日本の他のメンバーです。そんなパスを続ける中田を異端児扱いするのではなく、個々のスキルアップの必要性を理解したそうです。以降躍進を続ける今日の全日本と繋がっている……そんな話でした。

これは、我々ビジネスの世界にも通じており「常にイエスマンであり回りに迎合(融合)する」人もいます。しかしながら回りからは、社風には合わない「常に反発心旺盛でわが道」を行くタイプもいるでしょう。その後者の少数意見にも耳を傾ける余裕を持ちたいものです。もしかするとその「少数意見」が組織全体を変えるほどのパワーを持つことになるかもしれないという事を、中田英寿の例をみる限り感じ入る今日この頃です。

さて、最近の我が城北高校サッカー部の現役の活躍は皆様の知るところですがまだまだ、「発展途上」のチームです。本場の「自力(地力)」はまだ根付いていないような気がします。

私を含め、プレーヤーとしては今の現役に教えることはないでしょうが別の意味でまだまだ支援出来る事があると思います。(↓OB会費納入よろしくお願ひします。)我々、OB一同後方支援を更に協力に推進して行きましょう。また、時間があればどんどん「最上段」のグラウンドで悪い汗を流し「日頃のストレス」を解消してく

QPONのひとり言

一昨年・昨年と2年つづけて秋にOB会を開催しました。(昨年は田辺範和先生の校長就任祝賀会でした。)

そこで、多くの先輩方とお話をして、あらためて広島城北サッカー部を通じて多くの方とつながり、お世話になっているんだと感ずることができました。

もちろん、先輩方だけでなく、友人、後輩など多くの人との出会いが、広島城北サッカー部であったことを感ずることができました。

時代が違って、「最上段グラウンド」で汗を流した者がつながり、昔話をさかんに酒を飲みおさわぎをして、すばらしい時間を過ごしました。

正月の初蹴りも同じですが、集まったすべての人の広島城北サッカー部への想いがあります。

そこは各個人にとっての原点であったり、出会いの場であったり……。

楽しい思い出、つらい思い出、悩んだ思い出……。

喜び、後悔、達成感……。

頑張り、汗、涙……。

共通する想い最上段魂

この想いを伝えていく責任を強く感じ、今後もスタッフ・選手と共に頑張っていきたいと思ひます。

最後になりましたが、6月22日に亡くなりました横畠 涉君も「最上段魂」を強く感ずる選手の一人でした。彼の想いを引き継ぎ、彼と関わったすべての人々が彼の分まで、個々の人生を楽しみましょう。

広島城北高校サッカー部監督 宮本 誠 (19回生)

訃報

六月二十二日に 三十七回生
横畠 涉君 (享年二十二歳) が
ご逝去されました。
皆様にご報告すると共に、
心よりご冥福をお祈り致します。

近況報告

昨年の高校選手権大会二次リーグにおいて、広島城北高校サッカー部は三戦三敗に終わり、選手・スタッフともに力不足を痛感させられる結果となりました。三年連続で二次リーグに進出できたことは、これまでの積み重ねの結果であり、ひとつの成果をあげることができたと思ひますが、同時にここから上を目指すには何が足りないのか、どういう取り組みが必要なのかという問題を突きつけられました。来年こそはこれまでの壁を打ち破り、より高いステージに上ることを目指して、今年の取り組みがスタートしました。

広島地区新人戦

新チーム最初の大会だったが、昨年の同大会ではなんとか勝利した安古市高校と引き分けという結果でスタートし、試行錯誤の連続となった。その後の3試合は勝利することができたが、最終節では工大高校に引き分けてグループ2位となり、2位トーナメントにまわる事となった。

2位トーナメントでは五日市高校と対戦したが、前半に1点ずつ奪われ、反撃及ばず敗退が決定した。

広島県高校総体 広島地区予選

新たに1年生が加わり、国際学院と対戦した第1節、新人戦と同じく引き分け発進となったが、続く2試合を勝利し、最終節、崇徳高校と対戦した。前半は互角以上の内容だったが、後半はベンチの選手も含めてチーム一丸となって闘う相手に押され気味になり、交代で入った相手選手に2点を奪われてそのまま試合終了となった。この試合は、今後への大きなターニングポイントとなった。

今年に入り、新人戦と高校総体、二大会続けて県大会出場を逃してしまいました。特に高校総体では、J0入試で入学した新一年生を加え、ある程度の手応えを感じながら臨んだだけに、非常に残念な結果でした。その後のスタッフ、そして選手間のミーティングで今後の取り組みについて話し合った結果、広島城北高校サッカー部の強みとして「ファイティングスピリッツ」を掲げていくことを決めました。同時に、サッカー部に在籍することに伴って発生する義務・責任を明確にし、思いやり・主体性をもって日々取り組んでいくことも確認しました。そして「6月は広島で一番走るサッカー部」を合言葉にハードなトレーニングを続けています。

また、昨年から参加しているあすなろリーグに、今年も引き続き参加しています。6月上旬に行われたリーグ戦には、高校総体の敗退をうけて引退した三年生のうち、セカンドチームだった選手、あるいは公式戦の出場機会の少なかった選手も出場しました。コンディションのあまりよくない選手もいましたが、彼らの引退後に掲げた「ファイティングスピリッツ」を、現役の選手以上に発揮してくれました。そして彼らを支えるためにグラウンドにやってきて、いろいろな雑用を引き受けてくれた同級生、そんな三年生の姿は、クラブにとって非常に大事なものを積み上げてくれていると思ひます。

また暑い夏がやってきます。それぞれの想い一つにし、これからも思い切りサッカーに取り組んでいきます。広島城北高校サッカー部に、応援よろしくお願ひします。

広島城北高校サッカー部 コーチ 岩井 竜彦 (24回生)